

お生まれ

親鸞さまは、今から八百数十年前の一一七三年に、京都の南の地、日野の里という所で生まれられました。この土地は、親鸞さまのご先祖である日野家の人々が昔から住んでおられた所でした。日野家は、藤原氏の流れを汲む一族で、親鸞さまの父上は、日野有範ありのりというお名前の公家で、帝の母君に仕えておられました。親鸞さまには、四人の弟さまがおられました。が、お母さまは、親鸞さまがまだ幼い頃にお亡くなりになったといわれています。

親鸞さまのお父さまは、そういう時代の波の中で、何らかの事件に巻き込まれたのか、公家の位を捨ててお坊さんになりました。お父さまと別れることとなった親鸞さまもお坊さんとなられ、四人の弟さまもすべてお坊さんになられたのでした。

今とはずいぶん違う時代ではありますが、思いがけず突然に家族が離ればなれになる寂しさは、今も昔も変わりません。幼い親鸞さまや弟さまたちにとつては、とても辛いことであつたに違いありません。その寂しさ辛さを噛みしめながら、幼い親鸞さまはお坊さんの道を歩んでいかれるのです。

ご出家

九歳の時、親鸞さまは、伯父の日野範綱のりつなさまに連れられて、慈鎮和尚じちんかしょうじと円えんという偉いお坊さんのもとに行かれ、出家してお坊さんとなりました。それは、ちょうど桜の花が満開の季節であつたと伝えられています。